

北勢線	関係	年表	()は典拠資料
明治29年	2月5日	勢越鉄道株式会社発起及鉄道布設之認可申請 発起人稲垣専八外68名	(鉄会)
	4月10日	北勢鉄道株式会社発起及鉄道敷設申請 発起人江久保庄兵衛(大阪市)外10名	(鉄会)
明治30年	1月4日	勢越鉄道株式会社申請却下	(鉄会)
	3月29日	北勢鉄道株式会社申請却下	(鉄会)
明治44年	3月20日	北勢鉄道敷設免許申請 北勢鉄道株式会社発起人	(鉄文)
	5月26日	軽便鉄道敷設免許申請書進達副申 北勢鉄道株式会社発起人 伊藤紀兵衛 外22名 富田鉄道株式会社発起人 伊藤権六 外39名 内閣総理大臣 桂太郎	(鉄文)
	9月7日	覚書 北勢鉄道株式会社発起人・富田鉄道株式会社発起人	(鉄文)
	9月19日	覚書上書 北勢鉄道株式会社発起人総代松平家晃・梶島茂吉 三重県知事 久保田政周	(鉄文)
	9月25日	和解届 富田鉄道株式会社発起人 伊藤権六	(鉄文)
	10月3日	富田鉄道・北勢鉄道 届署添書 三重県知事 久保田政周 鉄道院監理部長 山之内一次	(鉄文)
明治45年	1月16日	北勢鉄道免許許可	(官報)
	7月25日	発起人追加届 横田太一郎 外15名 北勢鉄道株式会社発起人会会長・創立委員長伊藤紀兵衛 内角総理大臣侯爵西園寺公望	(鉄文)
	7月28日	起業目論見書 変更認可申請書 本年1月16日付免許の変更申請 北勢鉄道株式会社発起人総代・伊藤紀兵衛	(鉄文)
大正1年	8月30日	会社成立届 本店 桑名町大字京町1330番地 創立年月日 大正元年8月10日 資本金総額 金25万円 取締役 伊藤紀兵衛外9名監査役 岡村清兵衛外9名 内角総理大臣侯爵西園寺公望	(鉄文)

大正 2年	5月 3日	北勢鉄道起工式	(鉄文・伊勢)
	5月 6日	鉄道敷設工事着手届 北勢鉄道株式会社取締役社長 伊藤紀兵衛 内閣総理大臣伯爵山本権兵衛	(鉄文)
大正 3年	2月 24日	停車場設計施行猶予ノ儀二付申請 北勢鉄道株式会社取締役社長 伊藤紀兵衛 内閣総理大臣伯爵山本権兵衛	(鉄文)
	3月 7日	停車場設計変更之儀二付申請 北勢鉄道株式会社取締役社長 伊藤紀兵衛 内閣総理大臣伯爵山本権兵衛	(鉄文)
	4月 4日	竣成二付実地監査報告 技手 池上重吉 技師 鈴木幾弥太 監督局区長	(鉄文)
	4月 5日	北勢鉄道 大山田～楚原間開通	(官報・鉄文)
	5月 15日	伊藤紀兵衛は取締役社長を辞任 諸戸精太が取締役会長に就任	(名古屋)
大正 4年	8月 5日	大山田～桑名町間開通 この時 取締役会長 諸戸精太	(官報・鉄文)
	8月 9日	諸戸は失格 他の重役全員は一度辞任し、再任	(官報)
	8月 14日	代表取締役に稲垣専八・河瀬文蔵就任	(官報)
	11月 13日	六把野井水拱橋着工	(銘版)
大正 5年	5月 10日	星川停留場廃止	(鉄文)
	7月 15日	六把野井水拱橋竣功	(銘版)
	8月 6日	楚原～阿下喜東間開通	(官報・鉄文)
	11月 19日	北勢鉄道 開通式	(朝日)
大正 9年	3月 1日	増資 25万円 50万円	(株式申込書)
	7月 26日	監査役白木弓弦死亡登記	(17回営報)
	10月 14日	支配人中川肇死亡登記	(17回営報)
大正 14年	8月 1日	専務取締役稲垣専八 死亡	(27回営報)
昭和 2年	8月 20日	星川停車場竣功届	(31回営報)
	9月 8日	星川停車場貨物取扱実施届	(31回営報)
このころ?		大泉を大泉東と改称	(鉄文)
昭和 3年	6月 26日	益生跨線橋工事竣功届	(鉄文)
	10月 8日	専務取締役河瀬文蔵 死亡	(33回営報)
	10月 19日	社長兼専務取締役に松本長蔵就任	(33回営報)
昭和 4年	5月 17日	治田村 阿下喜村間鉄道敷設免許状下付	(官報)

昭和 5 年	5 月 20 日	阿下喜東 阿下喜間工事着手 請負人 東京市橋本組 (37 回営報)
昭和 6 年	2 月 20 日	桑名駅前 阿下喜間に定期乗合自動車営業開始 (鉄文) 新フォード号箱型八人乗り 2 台 1 日 6 往復 所要時間 1 時間
昭和 6 年	7 月 8 日	阿下喜まで開通・全線電化 大山田停車場は西桑名停車場に 阿下喜東停車場を六石停車場と改称 (官報・39 回営報・朝日・鉄文)
昭和 7 年	10 月	阿下喜停車場に転車台設置 (41 回営報)
	11 月 1 日	星川停車場新設し旅客取扱開始 (41 回営報)
昭和 9 年	6 月 24 日	北勢電気鉄道株式会社と改称 (官報)
昭和 13 年	1 月 1 日	兼業の乗合自動車 桑名 阿下喜線 休業 (52 回営報)
	3 月 1 日	兼業の乗合自動車 阿下喜 藤原線は夏季のみ (52 回営報)
昭和 13 年	5 月 3 日	稗田前停留所開設 (53 回営報)
昭和 15 年	2 月 15 日	阿下喜にてタクシー営業開始 (56 回営報)
昭和 17 年	12 月 20 日	砂利事業を分離して北勢砂利興業株式会社に移す (伊勢年鑑)
昭和 18 年	4 月 1 日	社長松本長蔵 死去 (伊勢・62 回営報)
	4 月 11 日	取締役社長松平家晃、専務取締役佐藤三郎就任 (62 回営報)
	4 月 30 日	貨物自動車事業を分離し、三重陸運株式会社へ譲渡 (62 回営報)
	4 月ころ	馬道・西別所駅本屋 1 棟改築 (62 回営報)
昭和 19 年	2 月 11 日	合併により三重交通株式会社北勢線となる (伊勢)
	7 月 1 日	畑新田・大木・星川・稗田前廃止 (員弁)
昭和 20 年	7 月 17 日	戦災被害のため桑名町～西桑名間運転休止 (鉄文)
昭和 23 年	9 月 23 日	桑名町～西桑名間運転再開し、桑名町を桑名京橋と改称する (伊勢)
昭和 25 年	9 月 3 日	ジェーン台風で大泉原? 阿下喜間不通 (伊勢)
昭和 32 年	11 月 25 日	麻生田～上笠田間脱線転覆事故 (新聞各社他)
昭和 34 年	9 月 26 日	伊勢湾台風により被害を受けて 5 日間不通 (中日)
昭和 35 年	10 月 6 日	麻生田～上笠田間の事故現場ショートカットなる (朝日)
昭和 36 年	6 月 25 日	豪雨で国道一号線が浸水し不通 (朝日)
	6 月 26 日	豪雨で北勢町内で被害を受け、7 月 9 日まで不通 (中日)
	11 月 1 日	西桑名～桑名京橋間運転廃止 (朝日)
昭和 37 年	4 月 10 日	三重交通が全面スト 桑名工業高校臨時休校 23 年、33 年につぐ戦後 3 度目のスト (朝日)
	8 月 26 日	中電変電所の配電線故障のため北勢線不通 (朝日)

昭和38年	3月9日	長宮駅をすぐ西に移転	(員弁町史)
	3月23日	七和駅を50 [㍍] 西へ移転	(朝日新聞)
昭和39年	2月1日	三重電気鉄道株式会社北勢線となる	(員弁)
昭和40年	4月1日	近畿日本鉄道株式会社北勢線となる	(員弁)
昭和41年	10月1日	貨物営業廃止	(員弁)
昭和49年	7月25日	集中豪雨のため鉄橋の一部が流失	
		8月24日まで六把野～北大社間をバスで代行運転	(朝日)
昭和52年	5月11日	西桑名駅を50 [㍍] 南西へ移転	(朝日)
昭和52年	11月	新車両8両を導入	(毎日)
昭和53年	8月26日	単線自動化並びにATS設置	(員弁)
昭和53年	9月1日	駅長所在駅を北大社駅に変更	(員弁)
平成4年	9月15日	昭和6年製造の「220型」引退	(朝日)
	9月18日	ワンマン運転開始	(計画)
平成12年	7月3日	近鉄は北勢線の廃止を表明	(新聞各社)
平成14年	9月4日	三岐鉄道株式会社が運行を引き継ぐことを決定	(新聞各社)
平成15年	4月1日	三岐鉄道株式会社北勢線となる	(新聞各社)
平成16年	3月1日	麻生田駅舎新築	(新聞各社)
	3月	西別所駅舎改築	(広報くわな)
	4月1日	六石・長宮・大泉東駅廃止、大泉駅新設開業	(新聞各社)
平成17年	3月26日	北大社・六把野・坂井橋駅廃止、東員・星川駅開業	(新聞各社)

(2005.07.30 西羽 晃 編)

鉄文 = 鉄道院文書・鉄道省文書(いずれも国立公文書館所蔵)

鉄会 = 鉄道会議議事速記録

営報 = 北勢鉄道会社 営業報告書

伊勢 = 伊勢新聞 朝日 = 大阪朝日新聞・朝日新聞 名古屋 = 名古屋新聞

中日 = 中部日本新聞・中日新聞 毎日 = 毎日新聞

員弁 = 員弁の姿 計画 = 北勢線活性化基本計画